姫工新聞

発行所
兵庫県立姫路工業高等学校
姫路市伊伝居600番地1
（079）284-0111
編集発行
新聞部
編集責任者　藤原万那花

芸術鑑賞会

12月15日(水)に姫路文化センターにて芸術鑑賞会が行われた。今年は雅楽師の東儀秀樹さんの舞台を鑑賞した。

笙、篳篥、竜笛の3つの楽器を演奏して頂き、それぞれの楽器についての説明もして頂いた。

笙・篳篥・竜笛はそれぞれ天・地・空を象徴する音色だという。笙は天から差し込む光、篳篥は地に在る人の声、龍笛は天と地の間を泳ぐ龍の鳴き声をそれぞれ表しているそうだ。

生徒会長の2R桐月悠真さん(神河中)は最後の挨拶で「どの楽器の音色も東儀さんの人柄が表れているように感じた」と話した。同じように感じた生徒も多かったようだ。それは東儀さんの見せてくれたものが私たちの心を確実に揺さぶった証拠だと言えるだろう。もし皆さんが「今日見たもの、聞いたもの、感じたことをそれを知らない周りの人たちに話したい、知ってほしい」と思えたのなら、その気持ちこそが伝統を伝えていくために本当に大事なものなのではないだろうか。

芸術鑑賞会が終わった後も興奮冷めやらぬ様子で鑑賞会の話をしている生徒が多く見られ、皆が東儀さんの演奏や東儀さん自身に心を掴まれた様子だった。きっといろんなものを目で見て、耳で聞いて、そして心で雅楽や東儀さんの内面から感じる何かに触れたのだろう。

▲篳篥を演奏される東儀さん

新聞部は芸術鑑賞会が始まる前に東儀さんに取材をし、40分ほどお話を聞かせてもらった。

「雅楽には哲学や美学、宇宙観などいろんな紐解き方があり面白い。また、雅楽などの伝統芸能の知識を持っていると外国人と接するときに日本人としての誇りを感じることができる」と雅楽の魅力を語ってくださった。

東儀さんは幼い頃から音楽が好きだったが、雅楽師になろうとは思っていなかったのだという。中学・高校ではバンド活動をされていて、その最中に音楽が好きなら雅楽をやってみてはどうかと勧められたのがきっかけだったそうだ。雅楽を好きになるかどうかはやってみないと分からないと思い始めてみたのだという。しかし、始めたのが高校卒業後と遅かったため、その年齢では試験も受けられないと言われたそうだ。だが、そこで東儀さんは諦めなかった。試させてほしいと食い下がったところ、試験を受けることができ認めてもらうことができたのだという。

「座右の銘はありますか」と尋ねたときに東儀さんは「ない」と迷いなく即答された。「人は精神的にいつでも変化しているものだと思っていて、その変化が個性の場合もある。昨日と今日の物事の考え方が真逆の場合もある。だから、一つに決めてしまうことにもったいなさを感じる」「色紙に書いた座右の銘だけで自分の印象が決まってしまうなら、最初から解釈させずにどんな人なんだろうと思ってもらったほうが良い」と話された。

▲東儀さんと生徒会役員

東儀さんに「もし生まれ変わっても雅楽師になりたいですか」と質問をした。すると「うん。生まれ変わっても東儀秀樹になりたいね」とここでも即答だった。「これが言えるということは今がすごく充実しているということ。また、いろんな人の応援や支えといった繋がりがあっての今の「東儀秀樹」だから、こんな風に言えるのは自分は人や環境に恵まれているということで、とても幸せなことだ」と語られた。そして「ただ一つ欲をいうと、今度はロックミュージシャンとしても成功したい。雅楽師兼ロッカー兼ギタリスト兼歌手になりたい」と笑って話された。

何事も前向きな考えをされる東儀さんだが「プラス思考」という言葉は使わないのだそうだ。「プラス思考」という言葉を使う人はマイナス思考の人が多いからだという。「巻き戻せない過去を見つめても意味がない。それならばここから先の楽しいことは何だろうと考える方が有意義だ」と話された。

高校生に向けてのメッセージも頂いた。「集団で活動する場では皆と一緒であることや、人からどう見られているかを気にしてしまう人が多い。しかし、自分を一番好きになってあげられるひとになってほしいと思う。同調圧力に影響されずに自分が一番自分のことを大好きになってあげてほしい」「そして、人目を気にせずにチャレンジすることを大切にしてほしい。やってみて初めてわかることもあるため、3つでも4つでもやりたいことはどんどんやるべきだ。そのことに費やした時間は良いも悪いもその時に必要なものだ」と話された。

今回取材をさせて頂き、環境や状況、自分の判断の結果など私たちがついつい値踏みしてしまうようなことを良いか悪いかで考えないところが東儀さんの魅力の本源のように感じられた。常に未来を見て、楽しいことやワクワクすることに正直で後悔をしない生き方をされていると感じた。取材中にも「ワクワク」という言葉をよく使われていて、本当に自分が「ワクワク」することやものを大切にされているのだと感じた。

そしてなによりも、東儀さんは心から音楽が大好きで誰よりも楽しんでいるということが伝わってきた。自分自身を楽しまれている姿がとても印象に残った。

（3D　藤原）

▲取材の様子

ごーごーしんぶんぶ

2月9日～13日にデザイン科展が開催された。今年はコロナ禍の影響で規模が縮小され、3年生の作品のみの展示となった。卒業制作や実習・課題研究を通して制作された作品が主として展示された。

例年では1・2年生の手伝いのもと、準備や搬入・搬出を行っていたが今年は3年生のみで行われた。しかし、皆が自発的に準備に取り組み、手際よく作業を進めることができた。最期の締めくくりとしてふさわしい舞台にすることができたと思う。

課題研究は週に3時間の授業を使い、1年かけて作品を作り上げた。たくさんの作品が机にところせましと並べられており、1年間の成果がよく表れているように感じた。

卒業制作ではアナログからデジタルまで様々な技法を自由に使い、B1パネル3枚分の作品を制作した。製作期間は約5か月で休日や放課後、冬休みを使い必死で作り上げた。皆それぞれの違うテーマや思いを持ちながらこの1年を頑張ってきた。そんな皆の個性が詰まった作品が展示できる機会を得られてとても良かったと思う。

今年は新型コロナウイルスの影響により例年より規模が小さかったが、来年こそは3学年全員の作品が展示できることを祈るばかりだ。

デザイン科展は毎年イーグレひめじで開催される。興味のある人はぜひ来年のデザイン科展を訪れてみてほしい。

（3D三島・西牧）

▲展示された作品

あひるの仔

第22回全国高校生ファッションデザインコンテスト

令和4年1月29日第22回全国高校生ファッションデザインコンテストが行われ、中川優菜さん(琴陵中)が神戸ファッション協会賞、梶田乃杏さん(山陽中)が優秀賞を受賞した。

このコンテストでは一次審査を通過したデザイン画をもとに実際に実物を制作していったそうだ。

梶田さんの衣装は「夢を見ること」がテーマで、革やオーガンジーフリルなどが使われている。革がぶ厚いため縫いにくく制作は大変だったが、可愛くできたので気に入っているそうだ。ファッションショーでは自分以外は専門学校生ばかりでとても緊張したと話していた。梶田さんは小学生の時に祖母の影響でファッションに興味を持ち、将来はウエディングドレスを作ることが夢なのだそうだ。

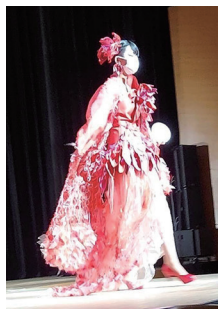
中川さんの衣装は「感謝」がテーマで、「感謝」を花言葉に持つダリアをモチーフに選んだそうだ。会場に来てくれた親に感謝を伝えられたと話していた。ショーモデルは別の方にお願いし、中川さんは舞台脇から見ていたのだという。緊張していたが、誇りを持って見ることができたとも話していた。

中川さんは、マーメイドラインのドレスや海外のキラキラした宝石のようなドレスが好きなのだそうだ。2つをイメージした、あっと驚くような誰もが輝けるドレスを作りたいとも話した。「自分の好きな格好をして歩くことはすごく楽しいこと。似合う似合わないではなく、私はこれが好きだからと自信を持って楽しむことが幸せだと思ってもらいたい」と話してくれた。

2人とも神戸ファッション専門学校に進学し、パリ留学を目指していくそうだ。それぞれの夢に向かって頑張っていってほしいと思う。

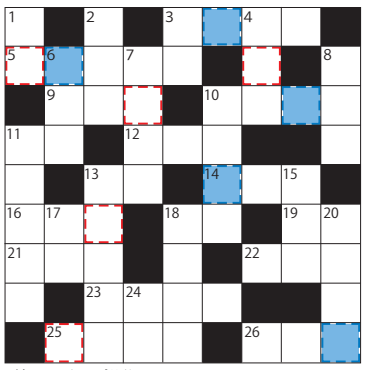
（3D　宮下）

3D　中川優菜さん（左）
3D　梶田乃杏さん（右）



◆クロスワードクイズ◆

問題1.　2.



クロスワードを解いて二重枠の文字をうまく並び替えると答えがわかります。小さい文字（ャ、ュ、ョ、ッなど）は大きい文字として扱います。

○に入るのはこの姫工新聞67号内にある語句です。

◆たてのカギ◆
1フランスの首都。
2春秋時代の思想家。儒教の祖。
3盲目的に愛することを「□□愛する」という。
4一番近い両横の位置。境を接していること。
6楽しくて気持ちの良いこと。
7世界や人間、事物についての根本原理を探求する学問のことを○○○○という。フィロソフィー。
8海豚と書いて□□□。
10本を読むこと。
11新聞・雑誌・広告などで、文字・図版・写真などを効果的に配列することを○○○○○という。
13突然、皮膚に鎌で切ったような鋭い傷ができる現象。昔はイタチのしわざと考えられていた。日本に伝わる妖怪でもある。
15自分への励ましや戒めのために日頃から心に留めておく言葉や格言のことを「○○○の銘」という。
17一富士二□□三茄子。
18既存のデータファイルの上に別のデータを記録すること。
20D科は○○○○科のこと。
24サンタさんが乗っているのは?

◆よこのカギ◆
3昔から受け継がれてきた有形・無形の思想・技術・風習・しきたりなどのことを○○○○という。
5龍の鳴き声を思わせる音色を持つ、雅楽に用いられる横笛を○○○○○という。
9室内の湿度を高めること。
10ラグビーやサッカーで、ボールを足で連続的に蹴りながら進むこと。
11ハワイで用いられる首にかける花輪。
12「越天楽（えてんらく）」が有名な平安時代に栄えた日本の古典音楽を○○○という。
13父母と未婚の子どもだけで構成される家族のことを□□家族という。
14横道十二星座の一つ。誕生日が7月23～8月22日の人は□□□。
16人や動物の首から上の部分。
18道などが曲がりくねっていることを表す四字熟語は「□□曲折」。
19boiled eggは日本語で□□たまご。
21遠まわりすることを□□□するという。
22王の座席。また、王の地位。
23夕方の薄暗いころ。「誰そ彼」が語源。
25地の音を象徴する音色を持ち、雅楽に使われる縦笛を○○○○という。
26時の流れの中にある一点を示す言葉は「時刻」。時のある一点から一点までの間を示す表現は「□□□」。

沈思默工

1月から新聞部で活動しているデザイン科の小畑咲良（広畑中）です▼私は読書が好きで、それもあり新聞も時々読んでいましたが、顧問の先生に勧誘を受けたことで入部しました。文章を読むことは得意ですが、書くことはあまり得意ではないです。自分なりに頑張って少しでも印象に残る新聞を作っていきたいと思います▼まだほんの少ししか活動していないのですが、私の中での新聞部の印象は大きく変わりました。これまで新聞は取材して書くだけだと思っていましたが、実際には取材をし、写真を撮り、文を書き、レイアウトを考えて編集をしていることを知り、驚きと尊敬の念を抱きました。先生や先輩方は大変そうでしたが、私は見ていてとてもやりがいを感じる仕事だと感じました。

（2D　小畑）

2月から新聞部で活動させていただいているデザイン科の山田菜乃（安室中）です▼私が入部したきっかけは顧問の先生からの猛烈なアプローチを受け、その熱意についにやられてしまったという次第です▼文章を書くのは正直あまり得意ではありませんが、これから皆さんに楽しく読んでもらえる新聞づくりを目指していきたいと思っております。よろしくお願いします▼さて立春が過ぎたというのにまだまだ寒い日が続いています。三学期も残すところわずかとなりました。一日一日を無駄にせず、残りの学校行事も大切にしながら過ごしていきましょう▼今後、新聞部の活動を通してさまざまな経験を積み、多くの方が興味を持ってくださるように頑張ります。

（2D　山田）

（参考）　M機械　E電気　C工業化学　Dデザイン　W溶接　R電子機械